

【生薬名】 龍骨 *FOSSILIA OSSIS MASTODI*

【起源動物】 ナウマンゾウ、ワニ、恐竜などの古代大型動物



【別名】 竜齒、白龍骨、龍角

【薬用部分】 古代の大型動物の化石化した骨

【主成分】 炭酸Ca、燐酸Ca

【薬性】 気味は寒渋平、帰経は心肝腎に属す

【効能】 ●鎮静安神・固精・平肝潜陽

●収斂・消炎、去痰、止血の作用がある

●高血圧・神経衰弱などの煩躁、不眠、頭ふらつき等の肝陽上亢証

●腎陽虚の夢精・滑精・下痢・帯下・不正出血など

●肝の陽気が上亢した状態の頭眩、頭痛、紅潮、耳鳴り、煩躁、不眠などに用いる、またこれに連動して起こる腎陽虚による夢精、滑精などの遺精、下痢、帯下、不正出血、発汗、皮膚潰瘍などの締まりの悪い症状に応用される

●生用すると精神安定の効果が強く、焼用すると収斂作用が強まる

●1日3～10g

【別名】 ●竜骨 味甘、夢遺精泄、崩帯腸癰、驚癇風熱。(薬性歌)

●心腹鬼注。精物老魅。欬逆。泄利膿血。女子漏下。癥瘕堅結。小兒熱氣驚癇。龍齒。治小兒大人驚癇癲疾狂走。心下結氣。不能喘息。諸瘧。殺精物。久服輕身通神明延年。(神農本草經上品)

●主治臍下動也。旁治煩驚。失精。(薬徴)

【備考】 ●本物の龍骨は多孔質で舌に付けると水分を吸って舌に張り付く

●竜齒、味渋涼は龍骨とほぼ同じだが安神の作用が龍骨より強いが収斂作用は弱い、1日3～5g

【処方例】 ●桂枝加龍骨牡蛎湯、柴胡加龍骨牡蛎湯、龍骨湯